



『災難の時のキリスト者の姿勢』

聖書:ルカの福音書13章1-5節/暗唱:ペテロ手紙第一 4章7-8節

説教者:鄭南哲 牧師

(Rev.Jung nam-chul)

愛する教会の信仰の家族みなさん!新型コロナウイルス(WHOでは2月11日:Corona Virus Disease2019(COVID-19)公式ウイルス名を名付けました。)の影響が続いている中、一週間もお元気でしたか。昨年年末から中国湖北省武漢市を中心に発生し、短期間で世界に広まっています。新型コロナウイルスが発病してから、今年1月10日死亡者が初めて出てから約2カ月の間急速に世界に広がり、昨日でWHO(世界保健機関;World Health Organization)によると、現在世界96国に、世界で感染者が10万3779人を超え、死亡者数も3522人を超えつつも、まだ治療剤が開発されず、世界がこの一つの感染病により、不安で苦しんでいます。これは、2002年の時中国から始まったサーズ(SARS;重症急性呼吸器症候群)の場合、世界8千人感染者・死亡者775人と2012年サウジアラビアから発生したマーズ(MERS;中東呼吸器症候群)世界1599人感染者発生、574人の死亡者よりはるかに強い感染力を持っていることで、日本中にも、昨日新たに3県での感染者が出て、47都道府県のうち、昨日で31県以上となり、もう全国に防ぐのは難しく、時間次第のように見られます。愛知県内でも感染者が50人を超え、アメリカのCNNのニュースによると、日本でまだ検査を正式に受けてないだけで、今より10倍すでに感染者がいるのではないかと報道され、我らにも大分肌で感じられるほどまで迫って来ています。この一つの感染病で、日本だけではなく、世界の人や家庭、子供、高齢者の生活や全世界企業500万にも影響を及ぼしていると言われています。

その中、我らの教会も先週から、家族単位と子供が多い我らの教会も、教会の家族の予防と安全、そして地域社会の責任を共に担う為、先週から3月まで主日礼拝と早天祈り会(マスク着用)以外、子供たちやユースの集いや教会の食事会、平日の人数が多い集まりなど休会させて頂いております。主日礼拝に参加される時には、教会においてある消毒剤とマスクをぜひ使用して下さいようお願い致します。そして、本日も礼拝後には、なるべく早めに解散するようにお願い致します。そして、週報にも載せているように、来週予定されていた20年度の教会信徒総会も3月最後主日の29日に変更し、総会時間も例年より短縮する予定ですので、ご理解とご協力をお願い致します。

私は、今の大変なコロナウイルスの感染病の状況の中、毎朝早天に祈りながら、①普通の日常生活だけでもどれほど感謝で、大きな祝福であったのか悟られます。②感染病一つで世界全体が不安と恐怖に襲われているのを経験し、いくら人間の医学と技術が発達して行っても、人の限界と弱さを常に覚え、神の御前でへり下る人生であることを学ばされています。③マスクなしでは生活ができない今の状況を通して、もっと自分の無駄な言葉、よく身近にいる人たちにむやみに傷つけてしまったしゃべりを減らし、沈黙の中、言葉の慎重と自制することを学んでいます。④今教会で自由に信仰生活が出来ず、空いている礼拝堂の姿も見ながら、教会家族が自由に教会や家の教会で集まって礼拝し、祈り、食事の交わりが出来ると何と幸いなことで祝福であったのか新たに教えられ、どうかその日がやがて来るように切に祈っております。

みなさんは、今の新型コロナウイルスの事で何を悟り、学んで、今祈っているでしょうか。ぜひ共に覚え各自家庭で、家族で祈りつつ、みんなの健康と安全の為、主の癒しと回復の為続けて祈って行きたいと願います。

<本文>

神様が人間に語られる時はまずある出来事を通して語られます。その出来事を神様の御心に仕掛けて記録されたものが聖書であります。聖書には数多くの出来事が記録されています。神様の靈感によって聖書を記録した人らは彼らの生活において見て、聞いて、直接経験されたその出来ごとが記録されたからです。時には奇跡という特別な出来事もあります。一方ではごく平凡な一般的な出来事を通して、神様は聖書に記録させ語って下さいました。このように記録された聖書のことを「特別(特殊)啓示」と言います。そして、自然や歴史もしくは我々の生活においての出来事とおして啓示される場合もありますが、これを「一般啓示」もしくは「自然啓示」とも言います。

ですから信仰を持った霊的な人というのはその時代に起きた出来事をそのまま受け取るのではなく、その出来事の上、裏面に隠されている神様の御心と御業の意味と奥義があるのか祈りつつ、悟らなければなりません。

愛する信仰の家族のみなさん!今週水曜日はどんな日であるかご存じでしょうか。東大震災9周年を迎える日ですが、こんにち、我々は思わぬ今の新型コロナウイルスをはじめ、日本の大地震、津波、放射線流出(りゅうしゅつ)によって、災難でなくなったり、被害を受けた多くの被害者を見ると、恐れ、不安になり、同時に胸がいたみ、悲しみを抑えることができません。思わぬ災難で愛する家族を失った遺族の方々の話を聞くたびに涙なしには見る事ができないとつらいの連続です。私はこのような不安と恐れのある出来事をみながら、どうして引き続きこのような災害や災難が我々に襲われているのか問わざるを得なくなります。いったい、なぜこのような不安と悲しみにおわれなくてはならないのか、どうしてあの大切な命が犠牲されなければならないのか、神様はこの出来事とおして、今の時代を生きる我々に何を語りかけて

おられるのか私の頭ではどうしても理解することができません。しかし、だからこそ、そのたびに神様の御言葉に立ち返り、そのメッセージと神の悟りを求めます。みなさんもどうしても理解できず、今の状況が苦しくて受け入れ難い時に、神の御言葉、聖書を開いて神の答えと知恵を求めて見て下さい。もし、みなさんの中にも今の時も、人の言葉や感情の波に巻き込まれてしまい、不安と恐れているなら、今の時こそ、神の御言葉を聞き、どう我々が受け止め、正しく悟るべきであるか求めて見るようお勧めいたします。

「あなたのみことばは、わたしの足のともしび、私の道の光です。(詩篇119:105)」と書かれているように神様のみことばにこそ我々の人生のあらゆる難題や諸問題の答えがあると確信しています。

<今日の本文>

今日の聖書本文1節によると、ある人たちがイエス様にやって来て「**ピラトがガリラヤ人たちの血をガリラヤ人たちのささげるいけにえに混ぜた**」ことを話します。「**ピラトがガリラヤ人たちの血を彼らのいけにえに混ぜたこと**」はいったいどういう意味でしょうか。これの解釈は、イエス様の当時、殖民統治者であるローマ総督が植民地の民だったユダヤ人たちを虐殺したことがありました。歴史によるとヨセフス(Josephus)ある過越しの祭りには3千人ほどのユダヤ人たちが祭壇にささげられる獣のように虐殺されたと話します。そしてほかの過越しの祭りの時は2万人も越えるユダヤ人たちが虐殺された記録もあります。どういうわけでガリラヤ人たちが殺害されたのかはわかりませんが、予想できることはガリラヤ人たちの一部が総督の気に入らない行動をしたため、仕返しされたこと程度で理解出来ると思います。ところが、**その悲惨な出来事に対して、当時ユダヤ人たちが持った思考と信仰とはそのような悲劇的に殺されたガリラヤ人たちの死は、神の前でガリラヤ人たちがそのぐらいの罪を犯したので、その罰で殺されたのだと考え込んでいました。**

その時、彼らの心と意図を測っておられたイエス様はシロアムの塔が倒れ落ちて、工事中だった人々18人が死んだ出来事を言われました。当然、この出来事をも当時の多くのユダヤ人たちはその人の罪の結果だと理解し、解釈したそうです。当時の人々はある人が不幸になったり、病気になったり、災難にあったり、苦しまれること全ては、その人の罪のためだという信仰と考えでした。

しかし、今日の本文2-3節をご覧ください。ある人がこのような出来事をイエス様に言った時、イエス様は「**そのガリラヤ人たちがそのような災難を受けたから、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い人たちだとも思うのですか。そうではない。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。**」イエス様はこの出来事に対する明確な解釈をしてくださりました。**イエス様は彼らの罪のためではないと言われました。**この出来事をおして神様は伝えようとしているメッセージがあるということです。すると我々は当時多く犠牲者の死と建物崩壊(たてもほうかい)によって多くの人が死なれたことに対して、イエス様から言われた言葉をおしてどんな教訓を得ることができるのでしょうか。

(1)人はだれでも死から逃れられない存在です。

シロアムの塔に倒れ落ちて死んだ18人だけではなく、実は、すべての人が死の前においてあることを教えて下さっています。人生は一寸先(いっすんさき)も、知ることも、見る事もできません。我々はこの地上で生きているうちに、感染症と戦争と災害と災難など様々な出来事が我々の命を脅かしています。このような死が予告(よこく)もなく、シロアムの塔の建築者たちにやって来ました。9年前の東大地震により、その震災による死者・行方不明者は1万8428人、避難者は約47万人の中、。復興庁によると、昨年時点の避難者等の数はまだ5万271人となっており、当時建築物の全壊・半壊は合わせて40万4893戸にまで至りました。そのように被害を受けた方々の中でも自分がまさにそんな大災難の犠牲者になるなんてだれも考えられなかったと思います。ですから、**信仰をしっかり握っていて賢い人というのは死は自分と全然関係ない遠いものだと思ったり、死を恐れる人ではなく、いつも死を準備する人です。**今日が神様から許された自分の最後の日だという姿勢で生かされている人生一日一日を生きるべきであるという意味が含まれています。神学的にこれを聖書的な終末的信仰だと言います。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！みなさんは**人が死ぬ時、よく後悔する三つ**があると言われています。人は死ぬ時が近づいてくると今までのことを振り返ってみながら、大体共通に三つを後悔する傾向があります。

① もっと与えてなかった事に対する後悔

貧しく生きた人であれ、そうでなかった人であれ、死ぬ時が近づくと、どうしてもうちよっと分け与えることができなかったのか、どうして惜しまず与えるべきだったのに、欲張りや、握ったばかり、おろかな生き方をしたのか後悔するそうです。

② もっと忍ばなかった事に対する後悔

あの時に、うちよっと我慢すればよかったのに、もう少し待てればよかったに、あーどうしてその時いらんことばまで言ったのか、どうしてあのような余計な行動してしまったのか。’ 当時には自分が正しかったと考え込みました。それが最善だったと、そうするしか他の仕方がなかったと考えます。しかし、時間が経つと、うちよっとその時、自分が我慢すれば、耐えられればよかったのに、我慢できなかったことに後悔するということです。

③ もっと幸せに生きれば良かったのにと後悔

どうしてゆとりもなく、心の余裕もなく、働きすぎて生きて来たのか。ちょっと楽しんで良かったのに、楽しめたのに、どうし

て一度しかない人生を愛する家族と幸せに暮らすことが出来なかったのか、後回しにしてしまったのかに対して後悔しながら、そしてこんな自分で、周りの愛する人たちまで寂しくさせ、苦しめたことに対して後悔するのだそうです。

確かに人生の生死すべてが父なる神の御手の中にあるわが人生！今日が神様から自分に許されている最後の日であるという信仰の姿勢で日々を過ごし、この世での最後の瞬間を準備しながら生きなければなりません。このように生きる人こそ、明日自分の命がさられるとしても、喜んで迎えることが出来ると信じます。この人は一日を生きてもその一日を後悔ないように、毎日を忠実に生きることができるでしょう。このように準備された人は肉体の死は人生の終わりではなく、永遠の時があり、永遠の命が始まる時であることを信じて、もし、死の谷間を歩くことがあっても、災いも死の恐れず、その恐れを主と共に克服することができます。詩篇90篇9-10,12節をどなたか読んでくださいますか。

詩篇90篇12節で、「それゆえ、私たちに自分の日を正しく数えることを教えてください。そして私たちに知恵の心を得させてください。」と毎日自分の命の限界を悟り、それによって日々許された人生を正しく数えながら、毎日生きる感謝と喜びを得るようにとすすめています。おろかな者は死を他人のこのように考え、自分とは関係のないまだまだ、遠くあると思います。

是非こちらの小牧の地域にコロナウイルスに感染者が出ないように、我らの教会の家族の中で一切確診者が出ないでほしいし、祈っておりますが、そのような出来事が起こりうるかも知れません。9年前の東大地震や熊本のような強い地震が東海地区で起こらないよう、切に祈っておりますが、しかしながら、そのような災害が起こってもぜんぜんおかしくはないことではありませんか。我々も、肉体の死をいつ迎えることになるのかだれもわかりません。感染症に対してある程度の予防はできたとしても、それを完全にふさぐことのできる人がいるでしょうか。ガンの専門化の医師でさえガンになれるのではありませんか。もし、不慮の災難に出会っても、それは決してその人の罪の罰かのように考えたり、勝てにゆってはいけません。

愛する信仰の家族のみなさん！我々は死ぬにしても、生きるにしてもイエスキリストを信じ、主にあつて救われた神様の子どもたちであるなら、死に囲まれた“死のやみの谷”のようなこの世で、我々が今生きているという事実が奇跡の中での奇跡であり、人生全てのもものが神様の恵みです。ただ感謝するのみではありませんか。どちみち人生は有限な肉体をもって一千年万年生きることではできません。だれもが一度は死にます。しかし、永遠に死んではいけません。へブル人への手紙9章27節で「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように」とさばきを教えて下さっています。ですから、今日災難の中で本当に我々が恐れるべきことは、一度ある死ではなく、その死後にあるさばきと永遠の死なのです。

ですから、いつか分からない死の時の前に、ぜひイエスキリストを受け入れて信じて、永遠の命を得、父なる神様がおられる永遠の神の家に入れる、所有する備えをする人生のまことの成功者たちとなって下さい。

(2)この出来事を自分自身を顧み、悔い改めれるチャンスとしてつかまなければなりません。

シロアムの塔が倒れ落ちて死んだ人々がほかの人々より罪が多かったから、死んだのでは決してないことをイエス様ははっきりと教えてくださいました。今回のコロナウイルスや今までの災難で被害を受けた人々の中にはお年寄りの方々も、子どもたちも、そしてクリスチャンたちもいました。彼らが我々より罪が多かったので死なれたのでしょうか。イエス様はおそらくこのように考えている人々に3、5節に繰り返しつつ、強調しながら言われます。「あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」

むしろ、イエス様はこのような悲惨な出来事に対し、関係なく、さりげなく生きていた人々の悔い改めを命じられました。神様が我々に願われているのは他の人より、まず、罪人である自身の悔い改めです。悔い改めというのは、生きておられる神様の御前で自分に注目し、自分の罪を認め、自白することを意味します。悔い改めは罪人が有一赦される神の恵みの道です。救われる人とそうではない人、罪が赦される人とそうではない人の違いは罪を犯さないからではなく、キリストを信じて、自分の罪を認め、自白し、悔い改めれることができるか、どうかにかかっています。

「義人はいない。ひとりもない」とローマ人への手紙3章11節の御言葉のどおりこの世で罪のない人はひとりもいません。ですから、むしろ自分が罪人であることを悟る人こそ、幸いな人であり、祝福された人です。

ルカの福音書5章1-11節の言葉は夜通し働いても魚を取れなく疲れ果てているペテロに深みに漕ぎ出して網を下ろす様にとイエス様は言われ、その言葉に従って網をおろしたペテロは網が破れそうになるほどたくさんの魚を取りました。ペテロはイエス様の足元にひれ伏して、「主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから。」この告白をとおして彼は偉大な使徒の道を歩み始めます。このようにまことに神様と出会った人は自分が罪人であることを悟られます。他の人の犯している罪ばかりみつめ、ほかの人の罪がどれだけあるのか評価し、判断しようとしている人こそ聖書は一番高慢な人だと言います。自分はいつも正しいと思い込んで他の人を勝てにさばいたり、評価しようとする人は信仰の成長が不可能です。なぜなら、自分がいつも正しいと思っている人は悔い改めのチャンスをも逃してしまっているからです。

コロナウイルスで不安な時、恐れのある時に、人の心はとても敏感で、厳しくしやすくなります。勝てにさばいたり、神の罰か、呪いかのような話はやめて、この時こそ、神の前で自分を深く探り、顧みながら、悔い改めることにもっと心かけて歩ま

なければなりません。そうする時こそ、環境に左右されず、主と共に日々新たにし、任せられている使命と責任を忠実に、まっすぐに進み続けられると信じます。アーメン！

(3) 我々がやるべきこと:具体的な愛の実践と祈り

有名な神学者だったバクレイ先生は、シロアムの塔は当時ヘロデ王がエルサレムの水の不足(ふそく)を満たすため水路(すいり)を建設する段階で、塔を建てあげる中、だれもが予想できなかった事故に出会いますが、この工事のためには大金必要となり、当時ヘロデ王はその費用を勝てに神の神殿に保管されていた献金を武力(ぶりよく)で奪い、工事費にまわしたと指摘しました。そうすると、そのお金はヘロデ王が勝てに触っても、使ってもいけない、神様に捧げられていたものを、自分の業績を表すために、神の献金を奪って使ってしまった罪を犯したことがわかります。自分のための物質的な貪欲を満し、自分の権力と力を表したかったヘロデ王は、結局神様を恐れなかった為、大切な命18人を失ってしまったわけでした。実は、その働いていた人々ではなく、その主な責任はヘロデ王にあったわけです！さらに、建物が崩壊されることを知っていながらも、ヘロデ自分の宝石を動かすようにと命令した為、人々は避難させなかった為、さらに多くの被害者が出たわけであります。まさしくヘロデ王の黄金万能主義(おうごんぼんのうしゅぎ)の結果でした。自分の名誉とお金のためなら、神様をだまして、神のものを奪っても、他の人々がどうなっても構わなかった結果、尊い命18人が失われたわけであります。

愛する信仰の家族のみなさん！我々の社会はどうでしょうか。不義の手段と不正な方法であっても、お金の為なら、仕事の目的達成と成功の為なら、他の人たちはどうなっても仕方ないと思われる冷酷な社会の中で生きています。益々自己中心的になっている今の時代、自分の為なら、何でもやろうとし、周りの助けが必要な人が見えてもあんまり関心がありません。周りに苦しんでいる人たちがいても、自分のことじゃないから、目をそらします。ただ、自分と自分の家族のことしか、大事にしない時代に我らは生きているのではありませんか。

1912年、豪華旅客船(ごうかりよきやくせん)だったタイタニック号が何千人のお客さんを乗せてイギリスを出てアメリカに向かっていました。当時、世界で一番丈夫に作られ、一番豪華だったその船が冰山(ひょうざん)にぶつかって沈没し、たった711人だけが生き残り、みんなは船と共に死にました。みなさん、その理由は何かご存知ですか。人々は夢のようだったアメリカへの出航の喜びを無電室(むでんしつ)に入って親や、親戚などに電報を打つことで夢中だったそうです。その時、タイタニック号の前方には通っていたほかの船があって、その船からは緊急の無電(むでん)しきりに送られたそうです。“あなたがたの前に冰山があるので、気をつけろ。あなたがたの前に冰山が近づいて来るから気をつけろ”しかし、無電士たちはかならず聞くべきメッセージを聞き逃してしまい、お客さんたちの電報文を打つのに精一杯だったそうです。わずかなことのためタイタニック号は冰山にぶつかって大西洋(たいせいよう)の海にしずんでしまい、その事実があとになって明かにされました。

あらゆる危機は危険と新しいチャンスを同時に提供します。この危機の時代に、まず自分をさぐり、繰りかえってみながら悔い改める祈りが必要です。そして、神様のあわれみと赦しと保護のために祈りながら、この地上で苦しんでいる人々、助けが人ような人々を自分のように顧み愛を分け与えて行きましょう。一日も早くコロナウイルスから解放され、みんなが元どおりの信仰生活、日常の生活が出来るように、これ以上どうか被害が広がらないように続けて祈りましょう。神様の慰めと見守りとみ助けのために祈りましょう。

第一ペテロ4章7-11節の言葉を覚えて、この御言葉どおりに実践する時がいまだと信じます。

「万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。つぶやかないで、互いに親切にもてなし合いなさい。それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕えあいなさい。語る人があれば、神のことばにふさわしく語り、奉仕する人があれば、神が豊かに備えてくださる力によって、それにふさわしく奉仕しなさい。それは、すべてのことにおいて、イエス・キリストを通して神があがめられるためです。栄光と支配が代々限りなくキリストにありますように。アーメン。」

今の時こそ、クリスチャンたちとして、祈りつつ、力を合わせてキリストの愛を分け与える時もあります。不安と恐れの中にいる人々に神様からの慰めと平安を祈りましょう。主が今日も礼拝にいられたみなさんの上に、来れなかった教会の方々の上にも等しく、主が共におられ、守り、豊かな平安と恵みを与えて下さいますように切にお祈り申し上げます！アーメン！

